

# 2022年度 「りりこ賞」 受賞校の紹介

カゴメは、プレゼントしたトマトの苗を通して、トマト栽培や食育活動で得られた成果を収集するために、毎年「りりこわくわく食育実践レポート」を募集しています。

お寄せいただいたレポートには、子どもたちの気づきや学び、また、ご指導にあられた先生方のお知恵や工夫など、たくさんの貴重な情報がつまっています。これらが、当活動の原動力となっており、優秀実践校の取り組みを広く紹介することで、わくわくするような食育の輪が広がっていくと考えております。

2022年度は、3校を優秀実践事例「りりこ賞」として選出いたしました。

各校・園の詳しい実践レポートは、「りりこわくわくプログラム」サイトで公開しています。

ぜひ、ご一読ください。

福島県  
社会福祉法人  
会津若松保育協会  
若松第二保育園  
年長児 23名  
年中児 24名  
年少児 22名

## テーマ にこにこだいにっこ！ みんなで「りりこ」を育てよう



上段左から 渡辺 美由貴先生・川口 綾香先生・和田 礼子先生・酒井 健太郎先生  
下段左から 佐藤 夏来先生・土屋 とき福長先生・鈴木 実貴子先生



左から 根本 友子先生・小野 穂先生・二瓶 礼奈先生・鼎澤 郁子先生

畑とペットボトルプランター栽培とを組み合わせることで、各々の生長の違いが観察できました。ペットボトル栽培では子どもたち一人ひとりが自分の苗を持ち、楽しみながらしっかりとお世話することができました。「みんなの畑」では、年中・年少児も水やりや収穫に関わり、全員での栽培活動となりました。保護者からも育て方のコツを教えていただくなど、家庭との連携も図ることができました。大きな鍋で作るカレーパーティーでは、「凛々子®」だけでなく自分たちで育てた他の野菜も入れ、各クラスが分担して調理。自分たちで育てた野菜のカレーは格別でした。トマトが嫌いと言っていた子も「おいしく食べられた」「苦手だったけれど、好きになった」という感想を伝えてくれ、大満足の活動となりました。

### 活動のハイライト

湯むきしたトマトは「宝石みたい！」



自分のペットボトルプランター



### 活動のねらい

- 苦手な野菜を工夫して加工することで、好きになったり興味を持ったりする。
- 異年齢と一緒に世話をすることで、絆を深める。
- 異なる生育環境で育てることで、生長の違いに気づき、まわりの友だちと共有する。

東京都  
杉並区立  
西田小学校

5年生  
116名

テーマ 目指せ食品ロスゼロ、地産地消の実現へ



左から  
中澤 明子先生・井下 知紀先生・鈴木 朝代校長先生・北坊 伸之先生・  
石田 まなみ先生・佐々木 哲弥先生

給食の食べ残しの一部を肥料として活用するため、栽培の前年から給食室と連携し、たい肥を作り、土に混ぜ込んで準備をしました。加工用トマトは、農家では支柱を立てずに栽培することを知り、定植後は地面を這わせて栽培することに。トマトに雨が当たると病虫害が発生しやすくなるので、児童と相談して、塩ビ管・ダンボール・ペットボトルでトンネルを作り、ビニールシートを張って簡易的な温室を作りました。また、農家ではわき芽を摘み取る「芽かき」せずに収穫量を増やすことを知り、私たちも挑戦してみることにしました。その結果、1,000個以上のトマトが収穫できました。家庭科の調理実習で「すべてのトマトを残さず食べること」「栄養バランスを考えたメニュー」をテーマに、野菜スープにして味わいました。

活動のねらい

- 自分で育てた野菜を使って、食品ロスを出さないレシピを実現する。

活動のハイライト

野菜スープづくり



みんなで作った温室



神奈川県  
横浜市立  
戸塚小学校

個別支援学級  
1～6年生  
21名

テーマ りりこで広がる学びの輪



左から  
坂口 史明先生・中谷 英里佳先生・竹山 信代先生・柿沼 孝に先生

活動計画を立てるために、栽培前に目標を設定。収穫したトマトを使ってつくる料理を投票で選んだ結果「ピザパーティー」を開催することに決定しました。子どもたちが育てた「凛々子®」は、ピザパーティーの他、給食や地域の障害のある方が働くカフェや子育て支援カフェ・子ども食堂で食材として使っていただき、おいしいメニューとなって多くの人々に喜んでいただきました。多くの方から「ありがとう!」「おいしかったよ!」「これからも、がんばって野菜を育ててね!」という言葉をかけてもらえたことは児童の自己有用感を育むと共に学習意欲を高めることにつながりました。「凛々子®」の栽培を通して「食育」「教科」「地域」「働くこと」の4つのテーマそれぞれを、これまでの活動以上に大きく広げることができました。

活動のねらい

- 凛々子®の栽培を通して、
- 「トマトピザ」を作ることを目標に凛々子以外の野菜も育て、さまざまな野菜の成長過程を比較・観察しながら意欲を持って栽培活動に取り組む。
  - 給食でのメニュー化や地域のカフェ・子ども食堂・園芸店との連携により、働くことの楽しさを知ると共に自己有用感を高める。

活動のハイライト

「凛々子®」を紹介するCMを放送



子ども食堂や  
カフェにトマトをお届け



## 「りりこ賞」受賞校とのふれあいを通して

2022年度もたくさんの学校・園より「りりこわくわく食育実践レポート」をお送りいただきありがとうございました。

ひとつひとつ全てのレポートを読ませていただき、子どもたちが一生懸命考えたり工夫したりしながら栽培や調理を楽しんでくれたことがよく分かり胸いっぱいになりました。

受賞校3校とオンラインでつなぎ、笑顔で元気いっぱいのみなさんとお会いすることができました。画面越しで表彰し、天候や虫害で大変だったことや、育てたトマトで作った料理がいつもよりおいしく感じたこと、「凜々子®」のオリジナルソングを作ってみんなで歌ったこと、環境問題を考えることにもつながったこと等、子どもたちの言葉でたくさん教えてくれました。ひとつのトマト苗から、様々な分野への発展、地域・校内交流等、教育現場での貴重な体験機会につながっていることをうれしく思います。この活動を工夫しながら支えてくださったすべての先生方、本当にありがとうございました。

カゴメが推進している「植育から始まる食育」をまさに体現している本プログラム。今後とも「命への関心」と「感謝する心」を育み、「野菜好き」につながる活動を推進してまいります。

引き続き、ご支援とご協力をよろしくお願いいたします。



広告部 宣伝グループ  
田口 りこ



これからも野菜を  
たのしく育ててね!



# りりこわくわく食育実践レポート 募集要項

貴校・貴園でのトマトの栽培・調理活動についてレポートを募集しています。

レポートを提出いただいた学校・園には、

「2024年度りりこわくわくプログラム」を優先的にご案内します。

## 応募資格

「トマト」の苗の栽培・調理活動(2023年度は学校・園、給食、家庭などやり方は問わない)に取り組んだ学校・園の教職員の方

## 選考基準

- 子どもたちが積極的に栽培活動に取り組み、食への興味・関心を高める内容であること。
- 他校の参考となり、活用できる内容であること。(例)工夫した栽培、他の学年へ情報や収穫したトマトの共有、など

## 賞

今年度の優秀実践事例として選出された学校・園には、「りりこ賞」として記念盾および賞金5万円を進呈いたします。

## 応募締切

2023年11月24日(金) ※応募事例の著作権は、カゴメ株式会社に帰属します。

## 応募方法

### 郵送

応募用紙\*に必要事項をご記入の上、下記までお送りください。

※「りりこわくわくプログラム」サイト内の「学習関連資料ダウンロード」よりMicrosoft Wordデータをダウンロードしてください。

応募用紙をダウンロードする

URL → <https://www.kagome.co.jp/ftl/ryrycowakuwaku/tomatoschool/>

応募用紙に必要事項を記入する

応募用紙と資料(レポート)を送付

※ご提出いただいた応募用紙や資料・作品類はご返却いたしません。  
子どもたちの絵日記や作文などの作品は、必ずコピーをお送りください。

送り先

〒104-8691 日本郵便株式会社 晴海郵便局私書箱 第201号  
りりこわくわく食育実践レポート 係

### WEB

りりこわくわくプログラム「トマコミ」のサイトにアクセス

URL → <https://and.kagome.co.jp/c/TK6P>



レポートを提出してくれたらアリスのお手紙が届くよ



## お問い合わせ先

■配送・レポートに関するお問い合わせ: 1~5月、11~12月  
カゴメトマトの苗事務局 Tel: 0120-047-831 ※受付時間/10:00~17:00(土日祝日を除く)

■トマトの生育に関するお問い合わせ:  
トマトの苗 生育相談室(4~10月)  
<https://tomatona.com/kagome/seiiku/>



■その他のお問い合わせ:  
&KAGOME事務局(6~10月)  
<https://and.kagome.co.jp/inquiry/>

